

	調査種別	調査結果概要	調査結果からわかること
1	一般	P.14～ 問6～8 日常生活および健康について伺う項目 ⇒計画目標が達成できていない項目が多い 特に、栄養・食生活、身体活動、たばこの分野	健康への意識が低い傾向にある
2	一般	P.29 問9 Q：保健・健康づくりについてほしい情報 ⇒欲しい情報は、医療機関情報が1位となっている。6年前と変化がない。	現在発行している健康ガイドの情報では、市民の欲しい情報まで得られず満足していない。
3	一般、高齢	P.36 一般 問15 Q：隣近所との付き合いの状況 ⇒会えば立ち話20.8% 会えば挨拶 64.4% P.64 高齢 問47 ⇒会えば立ち話40.4% 会えば挨拶 39.5%	高齢になるほど、地域の関係性は高くなる(会えば立ち話をする事は増えていく)。高齢者と比較すると64歳未満の方(一般調査)は地域の関係性が低い。
4	一般、高齢	P.39 一般 問17 Q：自助、共助、公助の考え方 ⇒「共助が大切」と回答したのは3世代世帯で56.7%、一人暮らしで28.6% 「自助が大切」と回答したのは3世代世帯で13.3%、一人暮らしで42.9%。	夫婦、2世代世帯、3世代世帯では共助重視が多いが、一人暮らしの人では自助重視が多い。
5	一般、高齢	P.39 一般 問17 Q：自助、共助、公助の考え方 ⇒共助の考えが6年前より減少 ⇒男性は自助が大切(37.6%)、女性は共助が大切(44.0%)の回答が多い。また、高齢者向け調査と比較すると、高齢者の方が自助が大切という回答が多い。	これまでも、このような傾向はあったが、引き続き、共助の考えが減り自助、公助を期待する声が増えている。 その中で、男性は自助が多く、女性は共助が多い。前回と比較し、自助公助は増え、共助が減っている。また、高齢者ほど自助意識が高い。
6	一般、高齢	P.40 一般 問18 Q：日頃から連絡を取っている家族・友人との距離 ⇒「遠方家族 48.8% 遠方友人 34.0%」が多い P.67 高齢 問50 ⇒「遠方家族 46.4% 遠方友人 20.8%」が多い	連絡を取っている家族や友人は一般も高齢も全て遠方が多い。
7	一般	P.60 一般 問30 Q：生活困窮者自立支援制度についての認知 ⇒生活困窮者自立支援法の制度をよく知らないがおよそ半数を占めている。また、制度を知っている人の認知方法が、『テレビ・ラジオ・新聞』等マスコミによる周知である。	H27年度に施行されて以来、周知に尽力してきたが、いまだ認知度が低い状況にある。
8	一般	P.64 一般 問33 Q：福祉サービスに関する情報の入手程度 ⇒十分ではないがある程度入手できている以上 19.6% (前回16.8%)	前回と比べて福祉サービスに関する情報は入手しやすくなっている。
9	一般、高齢	P.72 一般 問37 Q：重要だと思う保健・福祉施策 ⇒防災や安全対策の充実 27.5%	防災に対する意識が強い
10	一般、高齢	P.74 一般 問38 Q：助け合えるまちになるために重要と思うこと ⇒地域活動を担う人材の養成37.5% P.76 高齢 問57 ⇒地域における助け合いや福祉活動に関する意識啓発C49.3%	前回に引き続き、最も多い回答。

	調査種別	調査結果概要	調査結果からわかること
11	地域福祉関係者	P.86 問6 Q：地域で助け合う体制はできているか ⇒助け合おうという雰囲気・意識は育っている 61.2%	助け合う仕組みはできていないが、助け合おうという雰囲気・意識は育っている。
12	地域福祉関係者	P.90 問8 Q：相談を受けて困ることはなにか ⇒「相談を受けて特に困ったことはない 39.0%」、「個人で解決すべき問題の相談18.4%」、「相手のプライバシー14.2%」	困ることは個人の問題やプライバシーの問題が多い。
13	障害	P.132 身体 問18-2、18-3 おもな支援者について、配偶者と回答した方の割合は引き続き多いものの、6年前と比較し、子どもと回答した方の割合が増え、支援者の年齢層についても、30歳代と40歳代が増加した。	障害者の高齢化が進んでおり、親の介護や支援を行う方が増えている。
14	障害	P.137 精神 問17 現在の障害福祉サービス等での困りごとのうち「制度のしくみがわからない」が6年前より増加。なお、身体障害者・知的障害者においても「制度のしくみがわからない」と回答した方の割合は多い。	近年における障害福祉関連法の施行・改正により、多様なサービス等が整備されている。
15	障害	P.144 身体 問25-1 Q：通園・通学で困ること ⇒回答のうち、通勤や通学をするときに、付き添いがいと通えないと答えた方の割合が4割以上を占めている。	引き続き、移動に関するサービスのニーズが高い。
16	障害	P.147 知的 問19 希望する将来の暮らしにおいて、グループホームを望む声が6年前よりも増加。	支援者・家族の高齢化により、将来的なグループホーム利用に関するニーズが増加した。
17	障害	P.166 精神 問34 市に望む施策として災害や緊急時の対応体制強化が6年前よりも増加している。	近年、各地で大規模な自然災害が発生していることから、障害のある方の防災に対する意識が高まっている。
18	母子	P179 (1) 最も不安・心配が大きかった時期 「妊娠初期（5か月未満）」（54.5%） 「妊娠後期（妊娠8か月～出産まで）」（35.2%） 「妊娠中期（妊娠5か月～8か月未満）」（14.2%） 「特になかった」（22.7%） P180 (2) 不安や心配事の内容 「お腹の中の赤ちゃんのこと」（70.4%） 「妊娠中の自分のからだや健康のこと」（27.4%） 「産後の育児のこと」（25.9%）	妊娠中約8割の方は、不安を抱えている。
19	母子	P206 中学2年生の健康に関する意識 性感染症について知っていること “性感染症（STD）”について「知っていることはほとんどない」（66.1%） P207 “エイズ”について「知っていることはない」（42.4%） P208 妊娠・出産について知っていること 妊娠という言葉は知っているが漠然としたイメージしかわからない（33.5%） 「避妊という言葉は知っているが漠然としたイメージしかわからない」（21.2%）	性に関して言葉は知っていても正しい知識を持っていない生徒が多い。
20	母子	P219 子どもの発達で気になること 子どもが4～5歳の時期に発達に気になる事があったかどうか 「あった」（14.9%） P220 具体的な相談先 保育園・幼稚園（52.9%） 市の専門相談機関（29.4%） 医療機関（23.5%） 市の保健師（5.9%） 相談していない（14.7%）	発達に気になる事があっても相談していない人が14.7%いる。